

Title	コッター社版 マルクス著作集 (全八巻)
Sub Title	Karl Marx; Werke, Schriften, Briefe. 8 Bde. Cotta-Verlag. Stuttgart
Author	飯田, 裕康
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1961
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.54, No.8 (1961. 8), p.732(122)-
JaLC DOI	10.14991/001.19610801-0122
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19610801-0122">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19610801-0122</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

コッター社版

『マルクス著作集』(全八巻)

Karl Marx; Werke, Schriften,  
Briefe, 8 Bde. <Cotta-Verlag,  
Stuttgart>

「その精神が一九世紀以来われわれの諸時代を震撼させ、支配した偉大な人間、それはカール・マルクスである。一八一八年に一弁護士のちのロシア皇帝付法律顧問官の息子としてトリエールに生れて、彼は哲学学徒としてヘーゲルを学び、その弁証法原理から彼の唯物弁証法的世界観を展開した。彼は社会主義運動の先導者となってドイツから亡命し、失望・苦惱・破産・病苦・敵視のうちにいんうつな生活を送った。

われわれはマルクスを共産主義の予言者として、また彼の『資本論』をその世界観の福音書として考えがちである。しかも、彼はロシアを心底から憎んだのだが、まさにそのロシアで彼が革命の復活を祝うということは歴史のパラドクスである。

好むとこのまざるとに拘らず、東と西に分

割され、政治的なもの考え方やりとり慣れている人々にとって、カール・マルクスと取組むということは必須である。そのことは東においてのみならず、彼の業績にふりかかる信じえざる謬見から彼を守るために当然であり、また次のような問題をたえず提起するためにも当然である。すなわち『マルクスは今日どこに生きているか』また『われわれはマルクスにいかに対するか』?と。かかる問への答えは、すべての重要な経済学的・哲学的・政治的・歴史的著述を信頼できる形でつたえる彼の著作集を刊行することによってのみ与えられる。」(裏表紙より)

以上、本全集の刊行意図からもわかるように、カール・マルクスの六五年の生涯を通じての偉大な活動は、その後の世界(資本主義社会)に大きな影響を与えてきた。二十世紀後半の今日の複雑な思想状況の理解に、マルクス主義に対する何らかの評価がなかったなら、それは真に理解したとはいえない。同じことは「大衆社会」といわれる現代に生きる我々一人一人の態度決定についても言いうることである。したがって今や吾々はマルク

スへの正しい理解を欠いて思想を語れないといっても過言ではない。かかる意味において、本全集が、資本主義陣営内での唯一の独自の「マルクス全集」刊行の企図であることに注目しなければならない。そのうえ、現在刊行中の Marx-Engels Werke, 36 Bd. (Dietz) とともに、二つの世界の接点であり、マルクスの祖国でもあるドイツにおいて、二つの全集が刊行されていることは、マルクス主義そのものの直面している問題をも示唆するものとして興味深い。

本全集は問題別の編集をとっており、重要文献の最も完全なる全集を目指している。一九五七年第一巻が刊行された Werke が年代順の編集であるのと対象的である。また、今世紀に入って新たに発見・整理されたマルクスの重要な草稿・抜萃帳などが本全集でいかに取り入れられるかも興味のあるところで、本全集の完結が待たれる。

既刊。Karl Marx Politische Schriften.  
2 Bde. herausg. von Hans-Joachim Lauth  
1960. 50 DM.

—飯田 裕康—